副会長からのメッセージ

# 「品質の仲間」づくりに向かって～続き

（株）デンソー
若林　宏之

品質管理学会員の皆様，こんにちは．

この第52期で日本品質管理学会副会長3年目となりました若林です．丁度1年前にも巻頭言を書かせて頂きましたが，その時は既にコロナがパンデミック状態で，ロシアのウクライナ侵攻も始まっていました．その巻頭言では，品質管理学会員の減少に歯止めが掛かっておらず「品質の仲間」をもっと増やしていこうという想いを書きました．

さて，第51期の総括を永田会長が本誌の会長からのメッセージ「日本品質管理学会の活動と使命」で述べられています．様々な重点課題に取り組んで進展が得られましたし，各種の行事についてはオンラインでの開催のメリットもあり多くの参加が得られました．このような中で良かったことは賛助会員数が増加していることですが，一方残念なことは正会員数が相変わらず減少し続けているということです．

これについて，賛助会員には，学会の提供する行事への参加などでメリットを感じていただいている手応えがありますが，正会員にとってはどうなのかを十分議論して活動に反映していく必要があると思います．

特に企業に勤める者の立場から，正会員になりたくなるためにはどういう中身を学会が提供できると良いのかを考えた場合，それは現在及び将来に自分の業務に取り入れて行く必要があると思う知識やスキルが身につけられて，それを共有したりお互いに研鑽したりできる内容の充実と場の提供が重要であると思います．

例えば，先日標準委員会よりJSQCテクニカルレポート「品質不正防止」が提案されて制定されました．未だに企業の中では様々な原因で品質不正は発生しており，あるいは発生していなくともその可能性はどこにでもあると考えられます．レポートでは品質部署の担当者や経営者にとって組織や企業が適用できる質の高い理論・方法が提案されています．これを講習会，シンポジウムの場で共有することで正会員の減少の歯止めの活動のきっかけにしたいものだと思います．

また，1月に大学入学共通テストが行われましたが，この中の数学の科目に統計・品質管理に関わる問題が出題されました．更に2022年度からは高校課程の新学習指導要領に情報技術を活用する力を育むための共通必須科目として「情報Ⅰ」，更に情報システム，ビッグデータなどを扱う発展的な選択科目として「情報Ⅱ」が設定されました．現在の第52期の活動でも既に「問題解決（PDCA，SDCA）の初等中等高等教育への導入促進」という方針を柱の一つに掲げて推進中ですが，このような動きを睨んで，これまでの問題解決という領域を広げてホームページやシンポジウムで取り上げることで，企業会員のみならず高校の先生方にも品質管理学会員になってもらう可能性も出てくるのではないかと思います．

更にこれは前回も述べたことですが，現在，様々な製造業やサービス業でAIやビッグデータというキーワードが盛んに使われています．企業にとってそれを自ら使いこなすためにはどうすれば良いかというのは大きな関心事です．品質管理学会員になっているとそこがよくわかる・使いこなせる内容が提供され，それを使ってみた後や使いこなした後に事例を出し合ってアカデミアの先生も一緒になって議論できる場が提供されるということであれば，これも正会員数増加に貢献できるのではないかと思います．

第52期は3ヵ年中期計画の最終年でこの巻頭言が出るのは4月ですが，その中間時点での状況を会員の皆様と共有・確認し，目標に向けてPDCAを回しながら進めていきたいと思います．今後も「品質の仲間」づくりに品質管理学会員の力を結集していきましょう．